

立命館 災害復興支援室

瓦版

かわらばん

【第9号(特別号)】 2012年5月25日発行

「瓦版・特別号」

災害復興支援室の取り組みを

あらためてご紹介します

立命館では2011年3月11日の震災発生直後から「緊急対策連絡会議」を設置し、3月末より教育・研究機関としての立命館のあり様を検討する「東日本大震災関連特別検討プロジェクト」を立ち上げました。4月以降は「災害復興支援室」を設置し復興支援活動の支援に向けた基盤整備、現地との連携調整、ボランティア派遣など、学園として多様な取り組みを進めています。

学内外への広報について

取り組みについては、ホームページ、フェイスブックでの広報の他、特に学内に向けては、この「瓦版」の発行により最新の取り組み情報の周知を行っています。

瓦版は隔週発行で、学内への回覧・掲示だけでなく、ホームページでのPDFファイルでの紙面の公開を行っています。

ホームページでは[お知らせ][レポート]を随時公開しています。



facebookページ「いいね！」のクリックをよろしく願います。



学生による

復興支援の取り組み

立命館大学では学生部・サービスラーニングセンター・学部等を窓口、学生が取り組む復興支援ボランティア活動をサポートしています。

【これまでの主な取り組み】

岩手県山田町へのボランティア派遣
学生ボランティアに関する情報提供・相談窓口[311+rnet]の設置
夏期休暇中ボランティアの企画実施・ボランティアバス運行(127名参加)・報告会の開催・『スマイルエンジン山形プロジェクト』への学生派遣：がれき撤去、清掃活動等・『気仙沼暮らし楽しませ隊』へのサークル連合の派遣・仮設住宅での活動・『いわてGINGA-NET』立命ボランティアバスの運行等
立命館体育会ヨット部による東北大学、東北学院大学へのヨット提供 など

復興+R基金による

被災学生支援・学生の活動支援

「立命館災害復興支援基金」(復興+R基金)の設立

今回の震災により影響を受けた立命館で学ぶ学生が引き続き本学で学ぶことができるよう支援し、教育、研究活動を通じ災害に強い社会の構築へ寄与することを目的としています。

基金の財源は、学園内の教職員はじめ、校友、父母など学園関係者からの寄付・協力を得ています。

<基金の主な用途>

【被災学生支援金】震災発生時に在籍(もしくはは入学予定)し、震災の影響で経済的困難が生じた学部生・院生への生活費支援(立命館大学21名、APU2名)

【復興活動支援金】ボランティアバスへの財政支援など学生の活動支援

ご支援報告

災害復興支援基金(復興+R基金)は3月末時点で約2873万円にのぼる多額の寄付をいただいております。これは給与の引き取りを中心とした教職員からの寄付(のべ456名)、さらには、教授会懇親会、部課長懇親会等、立命館に関わる各団体からの寄付によるものであり、基金へのご協力をはじめ、災害復興支援室の活動にご理解とご支援をいただいていることに、深く御礼申し上げます。

災害復興支援室では、これら多くの方からご賛同、ご寄付いただいた復興+R基金の趣旨に基づき、学生のボランティア活動支援や被災学生支援金として被災した学生への経済的援助(2011年度に第1次募集・第2次募集を行い、23名を採用、月5万円の生活支援)を行いました。被災学生支援金は学生の修了年限までを予定しています。

そして2012年度も継続的な「後方支援スタッフ」を派遣し、現地での学生の支援活動をサポートします。

地震・津波被害地域への

「後方支援スタッフ」学生派遣

災害復興支援室では、中長期的な支援が求められる東北の被災地に向けて、学生を継続的に派遣する取り組みを検討し、サービスラーニングとは異なる位置づけで、「後方支援スタッフ」として学生を募集し、2011年12月から試験的に被災地への学生派遣を企画し、今日までに計8便のバスを運行してきました。

これまでの派遣概要

<派遣期間・派遣学生人数>

- 第1便 12/21(水) - 12/27(火) 5名
 - 第2便 12/28(水) - 1/2(月) 13名
 - 第3便 2/5(日) - 2/10(金) 15名
 - 第4便 2/19(日) - 2/24(金) 12名
 - 第5便 3/1(木) - 3/6(火) 13名
 - 第6便 3/22(木) - 3/27(火) 12名
 - 第7便 5/2(水) - 5/7(月) 13名
 - 第8便 5/17(木) - 5/22(火) 11名
- 夜京都発・朝京都着の夜行バス利用

活動受け入れ先・連携組織

- ・遠野まごころネット/サンタが100人やってきた!プロジェクト(1便)
- ・大槌町社会福祉協議会 大槌町災害ボランティアセンター(2便)
- ・NPO法人テラ・ルネッサンス/大槌復興刺し子プロジェクト(2便)
- ・遠野市文化課・三陸文化復興プロジェクトによる図書献本、文化財修復(3便)
- ・宮古市災害ボランティアセンター(4・5・6・7・8便)
- ・田老観光協会・津波被害説明会への参加(5・6・7・8便)



主な活動内容

- ・クリスマスプレゼントの配布準備
- ・被災した小学校校舎の清掃
- ・年越しイベントのサポート
- ・被災した小中学校への献本、公文書修復
- ・中学生の自習支援
- ・仮設住宅での生活支援、救援物資配布
- ・津波被害に関する現地説明会の参加
- ・復興支援イベントの設営、会場整理
- ・津波に浸かった写真の修復
- ・津波を受けた海岸の清掃 など



参加学生のコメント

Q: 参加する前と後で、自分のなかで変化したことは?

実際に現地に訪れてみると復興はまだまだこれからであり、これからの継続的な支援が必要になることを知った。一年を節目に少し風化されてしまいがちだが、これからは現地の物を買う、訪れる、伝えるといった小さなことからでも今まで以上に支援を続けたいと感じるようになった。(第5便/文学部3回生)

Q: 最も印象的だったことは?

メディアだけではわからない地域のひとの思いや、また自分がどれだけ恵まれた環境で学んでいるか、私自身もっと日々を大切にしなければいけないと感じました。仮設住宅のつらさやそれを支える人、陰で人のためになることをやっている人はたくさんいるんだなと思いました。(第6便/経済学部2回生)

復興支援のための連携拠点

形成の取り組み

立命館としての中長期的な震災復興の取り組みを進めるなかで、これまで主に岩手県遠野市、大船渡市、宮古市との連携を深めています。

<大船渡市と連携協力の協定を締結>

大船渡市役所の立命館校友とのご縁がきっかけとなり、2012年2月より、スポーツ健康科学部の教員と学生が、大船渡市内中学校において体力測定やトレーニングプログラムのレクチャーを実施。プロジェクトは平成23年度文部科学省「復興教育支援事業」にも採択されました。

また、立命館大学と大船渡市との間で、災害復興にむけた連携協力に関する協定を4/24に締結。市とも連携するなかで立命館としての復興支援を継続していきます。

<宮古市との連携>

東日本大震災の津波によって宮古市重茂石浜地区介護予防拠点施設が流出したことを受けて、理工学部建築都市デザイン学科

これからの主な取り組み

災害復興支援室 後方支援スタッフ派遣

<第9便> 6/14(木)夜京都発 - 6/19(火)朝京都着

<第10便> 6/28(木)夜京都発 - 7/3(火)朝京都着

国際平和ミュージアム2階ミニ企画展示「わたしたちにできること」

震災後の1年を振り返る学生企画の展示。

<第2期> 5/26(土)~6/17(日)

「震災から一年。気仙沼から同世代へ」

主催団体:公益社団法人チャリティ国際ボランティア会

<第3期> 6/23(土)~7/15(日) 主催団体:NPO法人国際ボランティア学生協会 IVUSA

「被災者xボランティア?いいえ、宮城のおっちゃんおばちゃんどもx京都の学生」

国際平和ミュージアム 開設20周年記念「放射能と人類の未来」中野記念ホール

放射能を「知る」・放射線を「防ぐ」・放射能を「教える」という視点から、放射能や被ばくについての基礎知識、原子力の利用や原子力発電所をめぐる歴史を展示。5/15(火)~7/27(金)

<それぞれの取り組みの詳細については、今後HPや瓦版でお伝えします。>

立命館では東日本大震災発生後、被災地域の大学からの支援要請など、緊急的・総合的に判断・対応が必要なものや、学生のボランティア活動、支援に関わる教員の教育・研究活動へのサポートなど、学内外の情報を整理し具体化していく必要性があると判断し、2011年4月21日に、「立命館災害復興支援室」を設置しています。

宗本晋作准教授が、地域や社会福祉協議会等と連携し簡易集会所を建設。学生と地域の方々との交流が続いている他、後方支援スタッフ(ボランティア)の派遣も実施中です。



<岩手県遠野市との連携>

支援活動の情報面の連携拠点として、遠野市で開催される支援関係組織の連絡会議「遠野市沿岸被災地後方支援連携調整会議」への参加の他、応用人間科学研究科「東日本・家族応援プロジェクト」の実施等、支援プロジェクトにおける連携、後方支援スタッフ(ボランティア)の派遣を行っています。

教育・研究を通じた復興支援

「東日本大震災に関する研究推進プログラム」の実施

東日本大震災の発生を受けて、立命館大学・APUでは、教育・研究を通じた被災地の復興と日本社会の再建への貢献・支援を具体化するにあたり、震災復興・災害防止等をテーマとした各種の研究プロジェクトの支援のための「東日本大震災に関する研究推進プログラム」を設置しました。

2011年度にはそれぞれ30件、3件(金額計5,000万円、197万円)のプログラムが採択され、取り組みが進められました。

この取り組みは2012年度も引き続き実施。現在募集を締め切り、審査を進めています(5/31研究プログラム決定予定)。

編集後記

今回は各都道府県で開催される父母懇談会にあわせ、特別号としてこれまでの瓦版特別号を作成しましたが、いかがでしたでしょうか。災害復興支援室ではこれからもますます復興支援に関する取り組みを行うとともに、情報発信を行っていきますので、引き続きご支援ご鞭撻を賜りますよう宜しくお願いします。また、みなさんからの情報、ご意見・ご感想もお待ちしております。

立命館大学災害復興支援室瓦版【第9号(特別号)】

発行人・編集 立命館災害復興支援室

075-813-8130(総合企画課内)

311fukko@st.ritsumei.ac.jp

http://www.ritsumei.ac.jp/rs/20110311/